

－答えと解説－

第4章の確認テストです。『レポートの書き方』第4章の内容がきちんと身につけているかどうかを確認しましょう。

**問1** 次の問いに答えなさい。

『レポートの書き方』を踏まえて、次の説明のうち最も適切な説明を選びなさい。

- 1** レポートを書くときには、文末は「敬体」で統一することが求められる。また、書き終わったら、「常体」が混ざっていないかを確認しなければならない。
- 2** レポートを書くときには、文末は「常体」で統一することが求められる。また、書き終わったら、「敬体」が混ざっていないかを確認しなければならない。
- 3** レポートでは、丁寧で柔らかい印象を与える「です・ます」体で書くことが求められる。また、書き終わったら、「です・ます」体で統一できているかどうかを確認しなければならない。
- 4** レポートでは、礼儀を欠いた言葉使いという印象を与える「だ・である」体は用いてはならない。また、書き終わってから、「だ・である」体が混ざっていないかを確認しなければならない。

**答え 2**

**解説**

『レポートの書き方』第4章第1節に説明がある。レポートはすべて常体(＝だ・である体)で書かなければならない。また、書き終わってから、敬体(＝です・ます体)が混ざっていないか必ず確認しよう。

**問2** 次の問いに答えなさい。

『レポートの書き方』を踏まえて、次の説明のうち最も適切な説明を選びなさい。

- 1** レポートを書くときには、「私は～と思う」「私は～と感じた」などの表現は基本的に使ってはならない。これらの表現を用いる代わりに、レポートでは「私は～と考える」という表現を積極的に用いるべきである。
- 2** レポートを書くときには、主観的な印象を与える表現、たとえば「私は～と思う」「私は～と感じた」「私は～と考える」という一連の表現はすべて使ってはならない。たとえ推論であっても断定的な表現を用いた方がよい。
- 3** レポートを書くときには、主観的な印象を与える表現、たとえば「私は～と思う」「私は～と感じた」などの

表現は基本的に使ってはならない。また、「私は～と考える」という表現も、日本語として未熟であるため、なるべく用いない方がよい。

- 4 レポートを書くときには、「私は～と思う」「私は～と感じた」「私は～と考える」という表現は決して使ってはならない。それらの表現を用いる代わりに、「〇〇は～と思われる」「〇〇は～と感じられる」「〇〇は～と考えられる」などの表現を、積極的に用いるべきである。

答え 3

解説

『レポートの書き方』第4章第3節に、「私は～と思う」「私は～と感じた」「個人的には～と思う」「個人的には～と感じた」などは禁止であること、また、「私は～と考える」もできるだけ用いないようにすべきであることが書かれている。「2」は、「たとえ推論であっても断定的な表現を用いた方がよい」の部分が不適切。「4」の、「私は～と考える」という表現については、避けるべきとはいえ、決して使用してはならないわけではないので不適切。また、「〇〇は～と思われる」「〇〇は～と感じられる」などの表現についてもなるべく避けた方がよく、積極的に用いるべき表現とはいえないので不適切。

問3 次の問いに答えなさい。

『レポートの書き方』を踏まえ、次の(※)に入る数字として最も適切なものを選びなさい。

わかりやすい文章を書く秘訣は、一文の長さを短くすることである。それにより、一文の中に含まれる情報量が整理されたり、主語と述語のねじれを防ぐことができたりする。一文の長さは、だいたい(※)字以内を目安にすると良い。

1 40

2 80

3 120

4 200

答え 2

解説

『レポートの書き方』第4章第4節に、「一文の長さは80字以内を目安とするとよい」と書かれている。主語と述語の関係をわかりやすくするために、「一文は短く」を心がけよう。

問4 次の問いに答えなさい。

『レポートの書き方』にある「文章表現 7 箇条」に含まれていないものを、次の中から一つ選びなさい。

- 1 修飾語の多用は禁止
- 2 「だ・である」体は禁止
- 3 事実と意見を明確に区別する
- 4 「～といえる」「～だろう」などは禁止

答え 2

#### 解説

『レポートの書き方』第 4 章に挙げられている 7 つのポイント、「1. 『です・ます』は禁止」「2. 話し言葉などは禁止」、「3. 『思う』『感じた』は禁止」「4. 一文は短く」「5. 主述関係に注意する」「6. 修飾関係に注意」「7. 事実と意見を明確に区別する」を確認しておこう。レポートは「だ・である」体で書くべきなので、ここでは「2」を選ぼう。

問5 次の問いに答えなさい。

下記の(ア)～(オ)の文章について、レポートとして適切な表現ならば「ふさわしい」を、ふさわしくない表現が含まれていれば「ふさわしくない」を選びなさい。

(ア) フロイトの精神分析は文学や芸術の解釈にも影響を与えてる。

- 1 ふさわしい
- 2 ふさわしくない

答え 2

#### 解説

『レポートの書き方』第 4 章第 2 節「話し言葉などは禁止」のところを確認しよう。たとえば、(ア)の例文では、「与えてる」が不適切。「与えている」に改める必要がある。

(イ) 原子力発電所の再稼働については国民の間で賛否両論あります。

- 1 ふさわしい
- 2 ふさわしくない

答え 2

解説

『レポートの書き方』第4章第1節「です・ますは禁止」の場所を確認しよう。(イ)の例文では、「賛否両論あり  
ます」が不適切。「賛否両論ある」に改める必要がある。

(ウ) 今回の物価高は、国民の生活に大きな影響を与えているみたいである。

1 ふさわしい

2 ふさわしくない

答え 2

解説

「〇〇みたいである」をはじめ、「〇〇みたいだ」「〇〇みたいな…」「〇〇みたいに…」などはいずれも話し  
言葉である。「～ようである」「～ようだ」「〇〇のような…」「〇〇のように…」を用いよう。(ウ)の例文の場合は、  
「…与えているようである。」が適切。

(エ) なぜ主人公は本作品のこの場面においてそんなことをしたのだろうか。

1 ふさわしい

2 ふさわしくない

答え 2

解説

『レポートの書き方』第4章第2節「話し言葉などは禁止」の場所を確認しよう。たとえば、「こんな〇〇」「そん  
な〇〇」「あんな〇〇」は、「このような〇〇」「そのような〇〇」「あのような〇〇」を用いよう。(エ)の例文では、  
「そんなこと」が不適切。「そのようなこと」に改める必要がある。

(オ) 日本社会にとって少子高齢化はとても深刻な問題である。

1 ふさわしい

2 ふさわしくない

答え 2

解説

『レポートの書き方』第4章第2節「話し言葉などは禁止」の場所を確認しよう。(オ)の例文では、「とても」が  
不適切。「きわめて」や「非常に」に改める必要がある。